

積雪深データ

2010/2011 年冬期の日本各地における積雪深の変化

63 巻から始めたこのコーナーでは、冬期間の積雪状況を振り返るため、代表的な地点 (図 1) における積雪深の変化図ならびに最大積雪深とその起日を示します (図 2)。

2010/2011 年冬期は、冬型の気圧配置が長続きして気温の低い時期と、寒気の影響が弱く気温の高い時期との対照が全国的に明瞭でした。日本付近に強い寒気が断続的に流れ込んだ 12 月終わりと 1 月末にかけては、日本海側の山沿いでは 3 m を超える積雪の所もあったほか、アメダスを含む 22 地点で積雪の深さが観測史上 1 位を更新するなど、日本海側の広い範囲で降雪量が多くなりました。特に 12 月終わりには西日本の日本海側を中心に大雪が降ったことなどにより西日本では冬の降雪量が多くなりました。なお北・東日本の日本海側では 12 月終わりと 1 月末にかけて広く大雪になりましたが、平年の降雪量が多い 2 月が顕著な少雪だったため冬の降雪量は北日本の日本海側では少なく東日本の日本海側でも平年並にとどまりました (気象庁発表)。

各地点の最大積雪深 (9 時積雪深の最大値) は、札幌 81 cm (平年値 109 cm, 2001-2010), 新庄 204 cm (128 cm, 1974-2000 年), 長岡 224 cm (142 cm, 1971-2000) および上越 131 cm (118 cm, 1975-2000) となりました。ここで () 内の数値は最

大積雪深の平年値とその統計期間を示しています。札幌は過去 11 年間で最小の積雪深だったのに対し、他の 3 地点では、平年値を超える積雪深を記録しました。特に新庄で最大積雪深が 2 m を越えたのは 1973/74 冬期以来 37 冬期ぶり、長岡で最大積雪深が 2 m 20 cm を越えたのは 1985/86 冬期以来 25 冬期ぶり、両地点では豪雪に見舞われました。

積雪の初日と終日は、札幌は 10 月 26 日～4 月 8 日、新庄は 12 月 4 日～4 月 21 日、長岡は 12 月 15 日～4 月 13 日、上越は 12 月 16 日～3 月 28 日でした。ただし、これらの期間には途中消雪した日を含んでいます。

データを提供していただいた機関、および担当者は、札幌：(独)農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター (井上)、新庄：(独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所 (小杉)、長岡：(独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター (山口)、上越：(独)農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター北陸研究センター (小南) です。測定方法などの詳細は各機関にお問い合わせください。

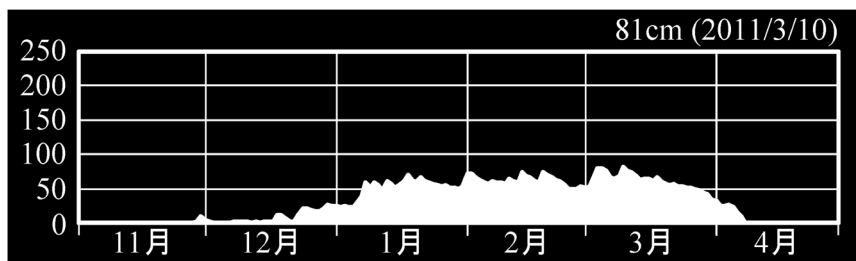
(このコーナーは、年 1 回、積雪期が終わった頃に掲載します。)

(山口 悟, 井上 聡, 小南靖弘, 小杉健二)

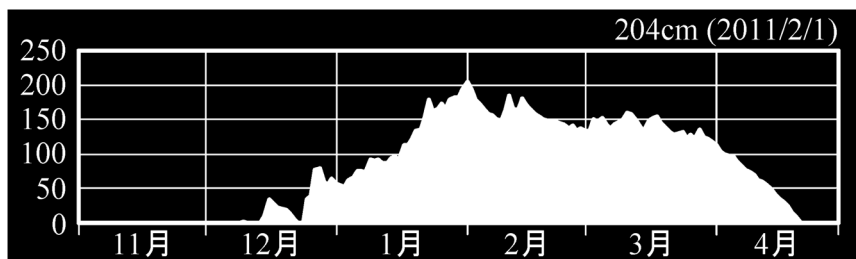
(2011 年 6 月 1 日受付)



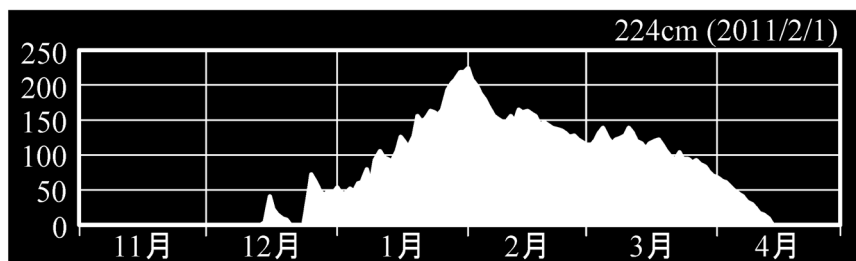
図 1 観測地点.



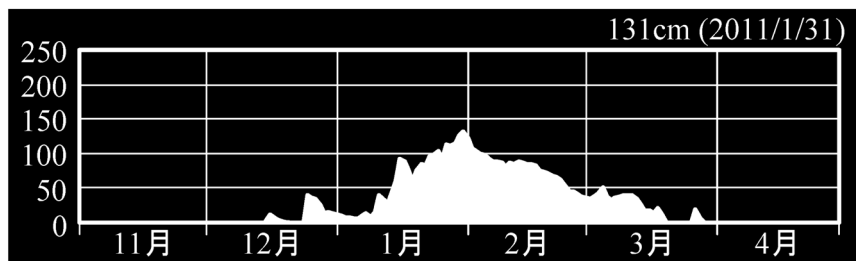
札幌市
(農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター)



新庄市
(防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所)



長岡市
(防災科学技術研究所雪氷防災研究センター)



上越市
(農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター北陸研究センター)

図 2 2010/2011 年冬期の札幌市, 新庄市, 長岡市および上越市における積雪深 (9 時) 変化 (単位: cm). 各グラフの右上には最大値とその起日を示す.